

アトピー性皮膚炎の治療において、多くの問題点があるにもかかわらず、ステロイド外用剤によるいわゆる標準治療が主座を占めるとされています。

その一方でアトピー性皮膚炎には自然治癒傾向があることも良く知られています。

またステロイド外用剤の副作用を心配して、あるいは副作用を生じたために、これを用いない治療を希望する患者さんも多数存在します。

アトピー性皮膚炎を臨床医が治療するにあたって、ステロイド外用剤は必須のものでしょうか？

私たちはこれを検証するために、ステロイド外用剤を使用しないでアトピー性皮膚炎を治療する患者を登録し、6ヶ月毎に経過観察することにいたしました。どうか本研究にご協力ください。

ご登録いただくと、担当医が、患者さんの性別・年齢・重症度などのデータを集計担当者へ送ります。お願いしたい内容は臨床情報の提供の御了解です。

このほかに通常の診察以外の患者さんの負担はありません。また、途中でステロイド外用剤による治療を希望された場合には、その時点で終了となります。

途中で終了するかどうかは、まったく患者さんの自由意思によります。研究にご参加頂くことによって、ステロイド外用剤の不使用を強要するものではありません。

6ヶ月後に医療機関を受診して頂き(研究に参加している医療機関であれば、先回と異なる医療機関でも構いません)、視診による重症度の再判定(これにより6カ月前後での改善の有無を見ます)と、その間にカポジ水痘様発疹症や伝染性膿痂疹などの感染症が起きたかどうかを問診します。

本研究は、研究参加医師たちによる自発的なもので、いかなる企業・団体などからも、資金提供を受けていません。結果は集計して医学雑誌に投稿する予定です。よろしくお願いいたします。

集計担当者

名古屋市中区千代田 5-20-6 鶴舞公園クリニック 院長 深谷元継

TEL 052-264-0212

-----

本研究の内容を理解し、臨床情報の提供に同意します。

年 月 日 氏名

(未成年者の場合) 保護者氏名